



土木紀行

道内有数のコメどころ・ 空知をつくる 北海幹線用水路 80余年の系譜

北海道赤平市・砂川市・奈井江町・美唄市・
三笠市・岩見沢市・南幌町

北海幹線用水路は、空知支庁北部の赤平市から、砂川市、奈井江町、美唄市、三笠市、岩見沢市を経て、南部の南幌町までの約80kmに及び日本一長い農業用水路。26,000haもの水田を潤し、コメどころ・空知を支える大動脈として大きな役割を果たしています。平成16年に未来に引き継ぎたい貴重な施設として「北海道遺産」に選定されたほか、平成18年には農業用水路を対象にした「疎水百選」(農林水産大臣認定)にも選ばれています。

この用水路の建設は、時代の変遷に対応して、3幕にわたって進められてきており、先人たちのたゆまない努力と北海道農業の進展を物語るものです。

第一幕 開拓農民たちの稲作への熱い思い を実現した「北海かんがい溝」

北海土功組合(現 北海土地改良区)設立の2年後、大正13(1924)年に着工し、4年4カ月という短期間で完成させました。赤平の北海頭首工をはじめ、川や道路の上に通水する「水路橋」や川の下に用水路を通すための「逆サイホン工」などで完成した用水路によって、空知地域は北海道を代表する穀倉地帯となっていきます。当時は、



写真 1 美唄川サイフォン工事中
(逆サイフォン工)

今日のように大型の建設機械やショベルカー、ダンプトラックなどのない時代ですから、すべてが人力で行われ、荷物を運ぶのは馬でした。しかし、当時の近代技術の粋を駆使した設計・施工は今のレベルと比べても決して見劣りしない北海道が誇るすばらしい技術と評価されています。

第二幕 国営総合かんがい排水事業「美唄地区」での大改修・近代化

昭和25(1950)年に設置された北海道開発庁により、昭和26年、第1期北海道総合開発計画が策定され、緊急施策の一つとして食糧増産が挙げられました。この計画をもとに、北海道開発局では、昭和33年から空知地方の9市町村にまたがる国営総合かんがい排水事業「美唄地区」として大改修事業を行いました。より安全的に農地に水を届けるために桂沢ダム、金山ダムができ、土を固めただけの水路をコンクリート水路(L型ブロック工法)にする改修工事など、軟弱な泥炭地で、かつ、積雪寒冷地である悪条件を克服するため、



写真 2 水辺の環境が大事な用水路
(奈井江町) 上



写真 3 昭和52年頃の北海頭首工
(赤平市) 上右



写真 4 昭和43年頃L型ブロック工法(奈井江町) 左



写真 5 田でんガーデン(岩見沢市北村) 中右

写真 6 砂川市親水公園・流れのプラザ(砂川市) 下左



当時としては最先端の技術を用いて工事が進められ、昭和54(1979)年に完成しました。

第三幕 国営かんがい排水事業「空知中央地区」での改修・地域の財産

近年の食料事情の変化などに対応するため、国営かんがい排水事業「空知中央地区」として、より効率的な用水路にするための改良工事が実施さ

れています。ここでは「きらら」などの良質の道産米を安定して生産するため、冷害から稲を守る深水かんがい用水をはじめとする近代化用水の供給を行うための整備などが進められています。

また、最近では、用水路を地下に埋設し、その上に住民の憩いの場となる公園を整備したり、地域と一体となった調整池周辺の植栽、地元小学校を対象とした「田んぼの学校」の開設など、用水路を地域の財産として有効活用する取り組みが積極的に行われています。

【参考文献】

- 1) 「美唄かんばい事業誌」 発行(財)北海道開発協会
- 2) 「北海道開発の英知とフロンティア精神」 著 阪本一之

【出典】

「ほっかいどうかいはつグラフ45号」北海道開発局広報誌